

観光混雑緩和や町家保全…

生徒 府議と活発議論

私たちの
自治

京都橘高 出前議会で解決提案

京都市伏見区の京都橘高で、生徒らが京都府議7人と「観光公害」などの地域課題について意見交換する授業が行われた。生徒らは、観光混雑の緩和や消滅していく町家の保全など、京都が直面している課題について自らの体験や調べ学習を通じ考えた解決策を発表し、府議たちをうならせていた。

授業は、身近な社会課題を抽出し、解決策を考え具現化する「探求学習」の一環で、同高2年の普通科Eコース約80人が参加。より具体的な解決策を考えるため府議たちの意見を反映させようと、府議会の出前高校生議会制度を活用した。生徒らは「観光」「文化」「教育」の3グループに分かれ、それぞれ府議2、3人を囲み、意見交換した。

京都橘高

地域課題の解決策を京都府議(手前左)らに提案する生徒ら



京都市内の混雑を課題とした生徒は、混雑原因として観光客の増加だけでなく、

四条通の歩道拡幅で車道が狭くなったことなども挙げた。解決のため「利用者の興味や属性に応じ、すいている観光ルートを案内する無料アプリをつくること」を提案した。別の生徒は、府文化博物館(京都市中京区)の企画展で音声ガイドや展示案内が日本語しかなかったことを疑問視し、満足度を高めるため多言語ガイドづくりの必要性などを訴えた。府議らは「府議会でも一度提案していきたい」「具現化したい」と応じていた。町家活用策を提案した生徒は、空き町家を豆腐などの

食品工場や、同一店舗で日時を分けて複数の経営者が別々の店を開く「コフレカフェ」にする案を発表。「外国人に人気の高いラーメン店と製麺工場を市内各地の空き町家につくれば、観光客の分散にもつながるのでは」と提案した。府議は「民泊やゲストハウスになり外側はきれいだが、人が住んでいないのが課題。研究してみたい」と前向きに受け止めていた。

(小川卓宏)